

郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年9月30日現在

今月の重点活動

■南天 農薬適用拡大登録に向けた試験を開始

郡上八幡南天生産組合では、正月飾り等縁起物用南天と薬用のど飴等の原料となる南天実を出荷している。南天実は、農薬登録における適用作物分類では「薬用なんてん」に分類されるが、現在実質上使用できる除草剤の登録農薬は無く、生産者にとって除草作業が大きな負担となっている。

そこで、農業普及課では、生産組合、中山間農業研究所、農産園芸課と連携し、除草剤の農薬適用拡大登録に向けた試験を開始した。農薬の登録申請のためには通常、少なくとも2カ年2例以上の試験結果が必要なため、来年度も継続して試験を実施する予定であり、早期の農薬登録を目指している。



【農薬適用拡大試験の様子】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 郡上指導農業士会全員会議を開催

郡上指導農業士会が9月13日、全員会議を開催した。会議では次期「ぎふ農業・農村基本計画」に対する意見の取りまとめ、下半期の事業計画や新規担い手リーダーの掘り起こし等の検討を行った。また、県指導農業士連絡協議会活動の情報共有も行った。会議後に情報交換会を開催し、日頃はそれぞれの仕事が忙しく顔を合わせることの少ない指導農業士同士の相互の連携、結束も深めた。

農業普及課では、農業の担い手リーダーである指導農業士の活動を積極的に支援していく。



【協議事項の検討】

■青年農業士 郡上マルシェ（軽トラ市）で郡上農産物をPR

郡上地区青年農業士連絡協議会（会員6名）では、9月21～22日に開催された第14回食の祭典 in ぎふ郡上 2024 の郡上マルシェ（軽トラ市）に会員自ら出店するとともに若手農業者の出店も支援した。

今年は21日のみの参加であったが、野菜・野菜苗・鉢物を消費者に直接販売し、来場者に郡上産農産物をPRした。

農業普及課では、今後も関係機関と連携して青年農業士や若手農業者の活動を支援する。



【農産物の出店・販売の様子】

■新規就農支援 トマトハウス栽培開始に向けた準備を開始

郡上トマトの学校で研修を受け、来年4月から就農する研修生1名のハウス建設が進められ、降雪前までの骨組み完成に向けて準備が進められている。

研修生は、8月下旬から就農地である白鳥町においてJA担当者、郡上市農業アドバイザー、農業普及課職員の支援を受けながら、建設するハウスの位置決め、地取り、くい打ち、糸張りを行った。今後パイプの配置、埋め込みしながらハウスの建設を進めていく。

農業普及課では、降雪前までに骨組みが完成できるよう新規就農者に対し関係機関と連携しながら支援をしていく。



【ハウスの位置決め等の準備】

■新規就農支援 経営安定に向けた個別巡回と技術支援を実施

県内では、トマトなど共選共販品目で経営開始する新規就農者が大多数を占める地域もあるが、郡上地域では直売所出荷や通信販売を前提に個人で野菜類等の生産出荷に取り組む新規就農者も多い。直近3ヵ年の当地域における就農実態は、新規就農者10名中3名が、個人出荷の経営スタイルを選択している。しかし生産者組織による活動がないため、栽培技術的に苦慮する懸念も否定できない。

こうした生産者に対して、農業普及課では個別巡回を行い、生産者の意向や認識を聞き取りすると同時に、作物の生育状況や圃場条件、所有および使用している機械装備、施用した肥料や農薬等の資材などを確認しながら、幅広い視点からの課題と対策の指導に取り組んでいる。

上述した経営形態は、郡上地域における就農の特徴でもある。新規就農支援は地域農業振興の軸足に位置付けられることであり、今後も経営安定に向けた個別支援を鋭意取り組んでいく。



【スイートコーンの生育状況の確認】

郡上農畜水産物のブランド展開

■トルコキキョウ 化学農薬を使用しない「土壌還元消毒」の現地試験を実施

高鷲町のトルコキキョウ生産者のほ場で、9月5日に土壌病害対策試験として化学農薬を使用しない「土壌還元消毒」の試験を開始した。

本試験は、農業技術センター病理昆虫部、農業経営課確認支援専門員と共同で昨年度から実施しており、昨年度の試験結果を踏まえ改良し2年目の試験を開始した。来年度栽培時に土壌病害発病調査を実施し効果を確認する。

農業普及課では、産地で課題となっているトルコキキョウの土壌病害の解決に取り組み、高品質安定生産を支援する。



【土壌還元消毒処理後の様子】